

Cold Fusion Research Laboratory (Japan) Dr. Hideo Kozima, Director

E-mail address; cf-lab.kozima@nifty.com

Websites; <http://www.geocities.jp/hjrfq930/>

<http://web.pdx.edu/~pdx00210/>

News のバックナンバーその他は上記ウェブサイトでご覧になれます

常温核融合現象 CFP (The Cold Fusion Phenomenon) は、「開いた（外部から粒子とエネルギーを供給され、背景放射線に曝された）、非平衡状態にある、高密度の水素同位体(H and/or D)を含む固体中で起こる、核反応とそれに付随した事象」を現す言葉で、固体核物理学(Solid-State Nuclear Physics)あるいは凝集体核科学(Condensed Matter Nuclear Science)に属すると考えられています。

CFRL ニュース No.84 をお送りします。この号では、次の記事を掲載しました。

1. 科学者の品位について
2. 訃報: Prof. John O'Mara Bockris (1923 – 2013)

1. 科学者の品位について

科学が真理の探究を目的とする人間活動であることは、科学者の間では長い間認められてきた当然の常識だと思ってきました。拙著 *The Science of the Cold Fusion Phenomenon*, の Topic 3. Radium and patent で紹介したように、Mme. Marie Curie は、ラジウムで特許を取るという夫 Pierre の提案を一言のもとに否定したと言われています。

しかし現代の社会では、すべての人間活動が利益追求に向かって奔流のように流れているようです。数年前に、青色 LED の発明にからんで、発明者として会社から多額の謝礼を勝ち取った研究者が、科学にも経済的な動機づけが必要だと話しているのを読んで、異質なものを感じたことを今更のように思い出します。

真理の探究なり、芸術の表現なり、善の研究なり、人間の多面性を豊かにする精神活動は固有の価値を持つものであり、射利を求めることを優先する活動とは異質なものではないでしょうか。時代が変わっても科学の本質が変わるわけではなく、人間活動の基本的パターンの一つとして、科学することは絶えることなく続けられていくことでしょう。

JCF14 が 12 月 7, 8 日に東京で開催されましたが、常温核融合現象の研究にたいする信頼を失いかねないような、不明朗な情報が流されているので、経緯を明らかにして、この研究分野でも、科学研究の本道を歩むのは当然だという風潮を確認したいと思います。

ご存知の方も多いことと思いますが、常温核融合現象の研究者やそれに関心を持つ人たちの間のコミュニケーションを円滑にする目的で、ある人が提唱してメールグループ(x group と略称)ができています。このグループへは、グループ員の紹介で参加できるように、資格もそんなに厳格に問われないような印象を受けています。いろいろな情報を知ることができるので、私も便利に利用させてもらっていて、ときに CFRL News の発行情報を知らせたりしています。

JCF14 の後で、下に引用したメール[メール1] が掲載されました。常温核融合現象が現在の科学界から白い眼で見られていることは、皆さん痛切に感じておられることと思いますが、固体物理学と核物理学の境界領域に位置するこの現象の立場からして、実験にも理論的解明にも、多くの困難が伴うことは避けられず、未だに手探り状態の研究を続けているわけです。これまでも G. Taubes, *Bad Science – The Short Life and Weird Times of Cold Fusion* (邦訳「常温核融合スキャンダル」朝日新聞社)などの本では、実験事実の信憑性を疑わせるような記述がなされてきました。一昨年亡くなった Martin Fleischmann (CFRL ニュース No. 79 参照)や昨年亡くなった John O'M. Bockris (次項参照)が、データを改ざんしたかのような記述をされていることは、Taubes を読んだ方なら思い出すでしょう。このような常温核融合現象にたいする科学界の不信状態は、依然として改善されているとは言えないのが現状ではないでしょうか。

このような状態にあるわれわれの研究とその発表は、特に慎重になされなければならないはず、少しでも科学の常識から外れたような振る舞いは避けなければならないことは、誰でも当然のこととおられることでしょう。[メール1] (発信者を YY と略称)を x group の交換メールに見出した時に感じたのは、「こんなインチキなことを書くとは、非常識にも程がある」ということでした。しかし、誰が書いたのかという詮索や何のためにという推測よりは、この研究分野における研究が、正常な科学的常識に則ってなされるべきものであると痛切に感じました。こういう嘘が飛び回るようでは、未だに科学界で市民権を得ているとは言えない常温核融合現象を世間に認めさせることは難しく、特に、実験データを全面的に信頼して解析を行ってきた私としては、実験データ自体の信頼さえ失いかねないことが心配でした。

そこで、x group で、非難合戦のようなことがこれまでも何回か起こっていたことを踏まえ、Lying and Thieving と題するメールを送って自戒を求めたものです([メール2])。

ところが、発信者の YY は何を考えたのか、次々にメールを送ってきて、その対応を

せざるをえなくなりました([メール 3-5])。驚いたことに、最後に YY が大見得をきって出てきたのが XX のものと称する日本語文章です。この真偽のほどは確かめようがありませんが、それが正しいとすると、その文章が明らかに嘘を語っていることは明白なので、[メール 6] を送りました。このメールに対しては、今まで何の反応もありません(1月10日現在)。

嘘つきと盗人

嘘つきは泥棒のはじまり (Lying is the beginning of stealing)

= Show me a liar and I'll show you a thief.

JCF14 の後で、あるメール・グループ (x group と仮称) に、下に引用したような短信 ([メール 1]) が現れました。その x group が私的な自由討論の場であることを考慮して、以下の引用では、私の名前は明記しますが、[メール 1, 3, 5] の発信者 YY と YY が論拠としている情報提供者 XX の氏名は表示しないことにします。また、XX が私的な通信で語った嘘が、公的に発表された研究成果にも反映しているかもしれない、などという大それたことを、私が危惧している訳ではないことを、予めお断りしておきます。

[メール 1]

2013 年 12 月 12 日 木曜日 午前 11:17

To: x group

He says he has not been to a JCF conference in 10 years. He was impressed by this one. There were 5 experimental papers.

[I think this means control over the size and morphology of the nanoparticles. That's what XX talked about in another message.]

<http://jcfrs.org/JCF14/jcf14-abstracts.pdf>

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

このメールを読んで、違和感を覚え、あまりにも見え透いた嘘で何かを飾るようなことは、科学の世界にはそぐわないし、却って有害であると思ったものです。最近、いろいろ不愉快な論争が飛び交っているこのグループ(x group)のメンバーに注意を喚起するためにも、この機会に次のメール〔メール 2〕を x group に送りました。あえて名前を出して問題にするほどのことでもないと思ったので、客観的な問題提起の形をとっています。

[メール 2]

YY の[メール 1] に対する私のメール

Lying and Thieving

2013 年 12 月 14 日 土曜日 午前 11:44

From: "hjrfg930@ybb.ne.jp" <hjrfg930@ybb.ne.jp>

To: x group

Dear all,

My old friend Peter Gluck left this group with the final words “I apologize and I

Which comment do you mean?

< The explanation seems to intend to praise a work but is doing “He-ki no He-ki-tao-she (proverb in Japanese)” . . . >

That does not look like Japanese to me. Try writing it in Japanese.

< There is another popular saying in Japan that “Lying is the first step to thieving,” (Woo-saw wa dou-row-bow no haji-mari, in Japanese). >

Usotsuki wa dorobou no hajimari. 嘘つきは泥棒の始まり。

<http://kotowaza-allguide.com/u/usotsukidorobou.html>

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

YY は、これまでの文章からも分かるように、日本語が上手です。メールに日本語が混じっているのは、そのまま彼の文章です。([メール 5] の文中の日本語も同様です) 彼の上のメール([メール 3]) に対する私のメールが次のものです

[メール 4]

YY の[メール 3] に対する私のメール。

Re: Lying and Thieving

2013 年 12 月 14 日 土曜日 午後 12:50

From: "hjrfq930@ybb.ne.jp" <hjrfq930@ybb.ne.jp>

To: x group

<Which comment do you mean?>

- -it was met with a standing ovation, - - -

<That does not look like Japanese to me. Try writing it in Japanese>.

最良の引き出し

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

上の私の説明にたいするYYの返信が次のものです。日本語を教えてくださいというのです

[メール 5]

私の[メール 4] にたいする YY の返信。

From: YY

Subject: Re: Lying and thieving

<hjrfq930@ybb.ne.jp> wrote:

Which comment do you mean?

<it was met with a standing ovation, >

Well, that is what XX told me. His exact words were:

発表は大変好評であった。珍しくスタンディングオベーションを受けていた。

I wasn't there, so I wouldn't know.

That does not look like Japanese to me. Try writing it in Japanese.

<最良の引き倒し>

hiiki no hikodaoshi.

<http://kotowaza-allguide.com/hi/hiikinohikidaoshi.html>

<http://dictionary.goo.ne.jp/leaf/jn2/182631/m0u/>

I do not think it means ". . . looking down him actually by that act." Maybe you mean

"pushing him down"? I would say it means over-avid support. Something like:

Standing so firmly behind someone, you push him right over.

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

日本語のニュアンスまで外国人と議論する心算もないので、日本語談義において、嘘の話を決めのメールでハッキリさせました

[メール 6]

YY の[メール 5] に対する私のメール。

Re: Lying and Thieving

2013 年 12 月 15 日 日曜日 午後 7:52

From: "Hideo Kozima, Cold Fusion Research Lab" <hirfq930@yahoo.co.jp>

To: x group

It seems your translation from Japanese to English is correct. Then, XX is lying because there is no standing ovation at all. We have no custom to show approval with a standing ovation. We have never had such an act in the long history of the JCF Meeting from the 1st JCF1 to the recent JCF14.

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

YYの引用にあるXXの文章「発表は大変好評であった」は、XXの主観的な評価なので議論の対象になりませんが、「珍しくスタンディングオベーションを受けていた」というのは、事実の問題として見過ごすわけにはいきません。さらにYYの姿勢に関して言えば、“I wasn't there, so I wouldn't know.”というのは、自分が責任の負えない事柄を公にするという、レポーターとして初歩的な誤りを犯しているのではないかと思います。

付言すれば、論文

JCF14-7 X.F. Wang, T. Mizuno, Y. Arata, Synthesis of nano-Pd particles in Y-Zeolite pores by ultrasonic irradiation

の内容は、私の記憶では、超音波を照射すると Zeolite の細孔 (径 0.8 nm) に Pd のナノ粒子が入りやすくなるという、篩を適当な振動数で揺ると選別(篩分け)速度が速くなるという常識を応用したもので、それなりの意味はあると思いました。しかし、この発表には常温核融合現象に直接関係した実験結果は含まれていなかったようです。この点を 5 人の友人に確かめたところ、私の記憶以上の内容を記憶している人はいませんでした。

それにしても、“the paper presented by Wang impressed the audience so much it was met with a standing ovation, which is unusual in an academic conference.” などという嘘を述べた文章が飛び交う x group は異常ですし、アカデミックな世界には unusual な、嘘で形容した文章を送る XX も unusual なら、多少は酌量の余地はあるにしても、それを真に受けて何かを宣伝しようとする YY も unusual だと思います。

これまでも、何人かの実験家から、解析の対象とするデータの信頼度にもう少し配慮すべきだのご忠告を受けてきましたが、発表されたデータはそのまま受け取って解析するという方針を貫いてきた私としては、実験データに何らかの作為が入り込む可能性を疑わせるような行動は、厳に慎んでもらいたいと思うのです。[メール 1] は、何らかの効果を狙って吐いた嘘なのかもしれませんが、論文の内容にまで疑いを招きかねない言動は科学者の品位に関わることで、XX のためにも、学会のためにも残念至極です。

(注記)

上記 [メール 6] に対しては、今日現在、なんの返信もありません(1 月 10 日)。

2. 訃報: Prof. John O'Mara Bockris (1923 – 2013)

By Stephen Fletcher

“Obituary: Prof. John O'M. Bockris” by S. Fletcher が *J. Solid State Electrochemistry* online 19 December 2013 に掲載されました。

<http://link.springer.com/journal/10008/18/1#page-1>

記事の一部を転載します;

“Bernhardt Patrick John O'Mara Bockris (born 5 January 1923 in Johannesburg, South Africa) died 7 July 2013 in Gainesville, Florida.”



John O'Mara Bockris (1923 – 2013)

John O'M. Bockris 教授のエッセー “Cold Fusion 1999” が、次の CFRL website に掲載されています;

<http://www.geocities.jp/hjrfq930/FTEssay/Essays/Bockris.htm>